

30周年を迎えて

稲美町いずみ会長 高見 敏子



この度稲美町いずみ会30周年を迎えることが出来ました。これまで永年に亘り活動を続けてこられましたのも一重に歴代町長様を始め行政、関係各位の温い御指導と御支援並びに会員皆様のご協力の賜と、心より厚く御礼申し上げます。

子供から高齢者までを対象に、地域で正しい食生活の実践活動と運動が日々の生活に定着する様、普及の推進に努め、健康づくりを進めてまいりました。その活動が評価され、平成13年には稲美町いずみ会が厚生労働大臣表彰をいただき受賞の喜びと共に感激でございます。行政を始め会員の皆様と共に喜びを分かち合うパーティーを開き、さらなる活動の原動力となりました。

中高生を対象にしたヘルスサポーター事業を受講した皆さんは一步自分らしい生活を実現し、そのためにも欠かせない健康と毎日の食事について考え、実践していることと思います。又、介護食講習を修了した方々はいきいきサロンのボランティアとして活躍されています。大変嬉しい限りです。その他にも毎年、地区組織活動を進めるためのリーダー養成講座を実施し、健康づくりの実践活動リーダーとして、社会や地域のニーズに対応した活動を会員一丸となって地道に続けています。健康づくりで元気な老人を増やし健康寿命の延伸、QOL（生活の質）の向上、介護予防に役立てていくため、おいしいごはんを食べよう、もっと大豆を食べよう、減塩に努めよう、野菜を食べよう、米を中心とした「日本型食生活」の定着、地産地消、食育に力をそそいでいるところです。

この度活動の歴史と歩みの一端を記念誌にまとめました。パワーアップ事業で活動していますレシピ集も掲載しています。大変未熟なものではございますが飛躍の指針となりますよう御活用いただければ幸せに存じます。又、編集にあたりまして多くの方々の御協力をいただきました。改めて厚くお礼を申し上げます。今後とも関係機関との連携を深めながら健康づくりの実践活動の輪を更に拡げて参りたく存じます。今後とも皆様方の益々の御協力と御支援をお願い申し上げます。

いずみ会活動に期待して

稲美町長 赤松 達夫



稲美町いずみ会発足30周年おめでとうございます。

食生活の改善を目標とし、健康づくり活動を地域の方々と一体となって進めておられるいずみ会の活動に心から敬意とお礼を申し上げます。

健康づくりを考え、食の安全・安心を求めてスローフード運動が広がりつつある中、食の原点を振り返ってみることはとても大切なことだと考えております。農業の盛んな稲美町の特徴を生かし、お米を食べる活動や、子どもたちへの食育教室、地場産の野菜等を用いた食生活改善活動に取り組んでおられるいずみ会の活動は、地域の中にしっかりと根付いてきていると確信しております。

さて、稲美町では昨年3月に健康いなみ21・健やか親子21計画を策定しました。その中における栄養に関する項目では、「望ましい食生活習慣の定着をめざして」という目標を掲げ、日々活動しているところであります。

現在、稲美町の平均寿命は県下において低い順位にあり、医療費の負担増は避けられない状況です。健康づくりはもう個人の問題では済まされないところに来ています。

そこで、平成15年度より重要施策として健康支援員制度を創設し、地域をあげての健康づくりに取り組んでいます。

今後も、いずみ会会員の皆様健康支援員の方々とともに、地域の核となって健康づくり活動を広めていかれることを願っております。

いずみ会の発足30周年の節目を機に、さらなる飛躍を祈りつつごあいさついたします。

いずみ会30周年のお祝い

稲美町いずみ会の皆様、30周年おめでとうございます。いずみ会が結成されてから早くも30年という歳月が流れたことになり、驚きと喜びをかみしめています。会員の皆様本当にご苦労様でした。

人間の一生にたとえれば、産声をあげた昭和49年から、よちよち歩きの乳幼児期の頼りない時期、この時期には幾多の危機があり、多くの先人の汗と涙があって乗り越えてこられたことでしょう。さらに成長期から成人期にかけて、いずみ会は大きく花開き、各地区において、今を盛りと力強さ、美しさを競い合っているように思います。しかし、いずみ会は、今を盛りの桜のように絢爛と花開いて、美しさを撒き散らしながら散っていく花ではなく、野菊のように地道に片隅で人々に安らぎを与えるような花であってほしいと願っています。

これから熟年期に向けて充実をしていくためにも、いずみ会の活動理念を今一度、思い起こしたいと考えます。いずみ会には、食生活改善という大目標があって先を照らしているからこそ、迷うことなく意義あるボランティア活動として頑張ってきたのではないのでしょうか。迷うことがあれば、『健康の源、美しさの源は食にある』ことは時代が変わっても普遍の真理だと思い起こしてください。

生命、安全、健康（美しさ）、そして豊かで文化的な生活が優先度の高い基本的な権利であり欲求ではないのでしょうか。その中で、人々の健康（美しさ）を担っている活動を行っていることに自信と勇気をもってください。楽しいことは、いくらでもあるでしょう。家事や育児に追われて時間が無いこともあるでしょう。しかし、家族のため地域の人々のために活動することは、精神的な充実と達成感があると考えます。

30周年を一里塚として、いずみ会の活動の理念に思いを寄せ、さらなる飛躍を期待しつつ、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

食の生活文化 ～ 利便性が豊かさか～

いずみ会30周年、おめでとうございます。

現在の日本の食生活は、飽食の時代と言われる程、豊かさに満ちているように思います。でもよくみると、豊かさにかくれて、ちょっと気になることがあります。それは利便性を求めて手抜き、安直さの調理文化があります。本当に豊かな食生活の文化は、料理を作る人の心と食べる人のふれ合いの心を感じる中で豊かさではないのでしょうか？

レトルト食品が家庭の中に入り込み、簡単に料理が出来る、また、レンジでチンする、あるいはスーパーの調理食品がそのままお皿に並べられるだけという食生活の文化。便利にはなりましたが、作り手と家族の食卓での暖かい心のやりとり何か物足りなさを感じます。

本来豊かな料理は、手間・暇かける料理人の暖かい心と食べる人との、心の交わりがあります。そこに家庭のぬくもりがあります。

調理は日々のことですから、便利さとぬくもりのある料理とのバランスが必要となるのでしょうか。これからのいずみ会活動の中で、このバランスを見事に創り上げる食生活文化の展開に期待しています。



社会福祉法人日の出福祉会
特別養護老人ホーム稲美苑
施設長 大西 弘文

稲美町いずみ会30周年記念誌発刊にあたって

稲美町いずみ会会員の皆様には、ますますご健勝のほどお喜び申し上げます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

さて、この度貴会におかれましては、30周年記念誌の発刊をなされました由、心よりお祝い申し上げます。

発足以来多くの困難があったかと思われませんが、それを乗り越え、今日30周年記念誌発刊まで成し遂げられたのは、これもひとえに常日頃の皆様方の懸命なご努力の成果と、深く敬服いたします。

貴会のご活躍につきましては広く町民の方々の知るところですが、当稲美苑におきましても、現在まで11年間にわたり、毎週火曜日の喫茶をはじめ、稲美苑盆踊り等各種行事でのボランティア活動を通して、多くのお年寄りの方々に喜びと楽しみを与えて頂きました。心より御礼申し上げます。

これからも30年の経験を生かし、貴会のますますのご発展と、稲美町の食生活改善活動の発展のために力を尽くされることと存じますが、皆様どうぞ健康にご留意なされ、一段のご活躍を祈念申し上げます。